

土屋
衆議院議員
品子



ヌーベル13区

ありのままのことばで語る政治

2007
Vol. 2

2007年(平成19年)7月1日 第40号

編集: 土屋品子後援会編集部

発行: 土屋品子後援会

| 〒344-0062 春日部市粕壁東1-8-15 TEL 048-761-0475 FAX 048-763-3475

土屋品子ホームページ OWLS NETWORK

<http://www.owls.co.jp>



環境副大臣として温暖化防止に挑戦

大風あげ祭りにて石川春日部市長と共に

環境問題で東奔西走。

「地球」「環境」という文字を大きく掲げ快晴の中舞い上がった大風。去る5月3日に庄和町で開催された大風あげ祭りに参加してきました。環境副大臣として「地球」「環境」という文字が今年の大風の文字に選ばれたことを大変嬉しく思いました。本番の大風のミニチュア(写真)を空に舞い揚げることで、副大臣としての重責を全うしなければと再度心に誓った一日でした。ここのところ「環境」という言葉がマスコミや国際会議でも大きく取り上げられ、国民

の皆さんがこれからの地球について考える

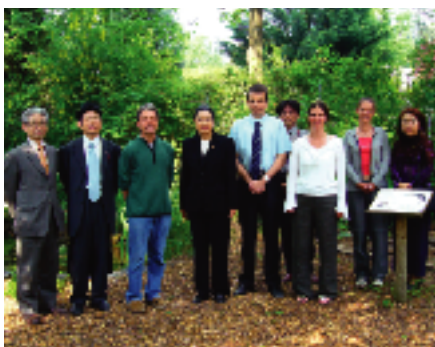
良いきっかけになったら良いなと日々思っております。一人一人の心構えを変えることで、山積している問題は解決の方向へ向かっていきません。

安倍首相が出席したドイツのハイリゲンダムのG8におきましても環境問題に焦点が当てられ、温室効果ガスの排出量を2050年までに世界で半減することを真剣に検討するとし閉幕したところです。私、土屋品子は、4月27日～5月1日までG8の根回しをするためスイスのジュネーブに環境関係の事務局を訪問し、更にドイツのフライブルクの先進事例を視察してきました。環境政策に関する意見交換や現地での視察は大変有意義なものでした。ハイリゲンダム・サミットでは、2013年度以降の「ポスト京都議定書」の枠組みをまとめる方針が決定され、今秋の主要

20か国閣僚対話や主要排出国15か国会議において、より具体的な議論が動き出します。2008年度には、北海道洞爺湖サミットが開催され、温暖化問題を再度、主要課題として取り上げる予定です。議長国となる日本として、各国と連携を取りながら積極的な役割を果たしていくべきと考えています。

さて、国内では年金問題が連日取り沙汰され、「消えた年金5000万件」と野党からの批判が続いていますが、ここで一言。5000万件は消えたのではなく「未確認の5000万件」なのです。約10年前に基礎年金番号が導入され、年金記録を1人1口とする作業に入りました。就職や転職、結婚により、1人が数口の年金番号を保有することとなり、約3億口の年金記録が存在することになったのです。この3

億口の年金記録のうち、約1億口は基礎年金番号が与えられ、残りの約2億口のうち約1億5000万口を基礎年金番号に名寄せした結果、現在は、約5000万口の未確認の年金記録が残っているということです。多くの意見がありますが、私は国民の皆さんからの相談、照会を待つばかりでなく徹底的なチェックを期限を限って社会保険庁自ら行うことが急務であり、全国民が本来受け取れる年金を全額受け取れるよう努力していくことをお約束致します。



レマン湖ビジターセンターを視察



ICLEI(国際環境自治体協議会)本部事務局長 ツインマーマン氏と共に

対馬で漂着ごみの視察

対馬海流の真っ只中にあり、朝鮮海峡を挟んで韓国までわずか 50km 程の日本の最西端の島。遣隋使や初期の遣唐使に経由地として利用され、大陸文化の入り口であった長崎県対馬市に 4 月 21 日、4 月 22 日の 2 日間視察に行ってきました。

現在、対馬で問題となっているのが、離島地域の海岸における漂流・漂着ごみによる自然環境の破壊や漁業活動への被害の深刻化です。海岸沿いにおけるごみは、全体の 80% ~ 90% が外国由来のもので、近隣諸国である韓国や中国から漂着するものが殆どであり、回収しても

繰り返し漂着する状況です。これらのごみは、処理に膨大な労力や費用を要していますが、処理責任は明確になっていません。現状では、漂着ごみの処理は市町村が行っているのですが、発生源対策は、地方自治体のみでは困難な状況です。

このような状況を踏まえ環境省は、平成 19 年度からモデル地域において、漂着ごみの現状・地域特性等について概況調査を行うこととなり、効果的な調査や清掃方法を検討していくことにしました。地方公共団体の支援や N G O との連携の強化等を通じ、より効果的な対策を実施していきたいと思っています。日中韓三カ国環境大臣会合等を開催し国際的な取り組みも推進していく予定です。これからも環境保全のため最大限の力を振り絞っていきますので、ご支援よろしくお願いたします。



漂流漂着ごみを視察



神原郁恵さんを「我が家の環境大臣」に任命

あなたも我が家の環境大臣

青葉の美しい東京・代々木公園において 6 月 2 日に開催されたエコライフ・フェア 2007 に行ってきました。環境問題が身近に感じられる昨今、家庭で誰にでもできるエコライフを推進しようと開催されているものです。この日はタレントの榎原郁恵さんを「我が家の環境大臣」に任命してきました。郁恵さんはマイバックの持参、牛乳パックのリサイクル、生ゴミ処理機を活用するほか、ペットボトルゴミの減量のためにお茶をポットに入れて持参しているとのことです。工夫次第でゴミは随分

減らすことができると積極的にエコ活動をされています。

日本全国の家庭から 1 年間に
出るゴミの量は 5,273 万トン、
それを載せたゴミ収集車を並べ
ると地球を 3 周半もする長さとな
ってしまいます。近い将来地球が
ゴミで埋め尽くされてしまいそ
うな量です。その中にはまだ
まだ使える物や、使わずに済
んだ無駄なものが山ほどありま
す。なんともったいない事では
しょう。「もったいない」をモ
ットーにあなたもエコライフに
取り組んで、今日から「我が家
の環境大臣」を目指しましょう！



ふくろう博士の
ワンポイント解説

ツシマヤマネコとは？

胴長で比較的足が短い猫（右横写真参照）。珍しいじゃろ。今回、品子さんが出向いた対馬でしかお目にかかれぬ希少価値の高い動物。その名は、「ツシマヤマネコ」じゃ。長崎県の対馬にしか生息していない上に、

80頭～110頭しかいないと言われているんじゃよ。しかし、嬉しいニュースもあるんじゃ。上下の2つの島から成る対馬の島内の下島には、ここ20年間生息情報はなかったのじゃが最近になって生存が確認されたのじゃ。絶滅のおそれのある動物で国の天然記念物に指定されているだけにとても喜ばしい。ヤマネコの減少には環境破壊によ

るものだけでなく、交通事故死やトラバサミ等のワナにかかって死んでしまうこともあるんじゃ。じゃがな、彼らがいなくなってしまうことは、人間が自然保護をしなくてはならないというメッセージでもあると思うんじゃ。人間の生活のみならず、多くの動植物を残していけるのは今を生きる皆さんじゃ。大切な地球の財産を次世代へ残していただ

ければ、次世代を担う子供達も皆さんの意向を受け継いでくれるんじゃないのかな。



ツシマヤマネコ

PROFILE



衆議院議員 土屋品子（つちやしなこ）

1952年生まれ。粕壁小、浦和岸中、共立女子高を経て、聖心女子大学文学部歴史社会学科卒業。栄養士、短大・大学客員教授。1996年10月の総選挙で埼玉13区より初当選。衆議院議員。現在4期目。厚生委員、法務委員、決算行政監視委員、青少年問題に関する特別委員会理事、衆議院憲法調査会、外務省大臣政務官、党国土交通専任部会長、党外交部会長、党政調副会長、外務委理事、内閣委委員を歴任。現在、環境副大臣。他に、日本エジプト友好協会理事、国会議員フットサルクラブ会長、対人地雷全面禁止推進議連副会長、日本アイスランド友好議連事務局長、日本カナダ友好議連事務局長。

INFORMATION

さわやかボランティアを募集しています。

「土屋品子」とともに新しい時代のさわやかな政治を実現しましょう。土屋品子後援会ではあなたの参加をお待ちしています。

「さわやかキャンペーン」ミニ集會に土屋品子をお呼びください。

各地区でミニ集會を開催中です。どうぞ友人や仲間と一緒にご参加ください。また、ミニ集會に土屋品子をお呼びください。

国会の中に入ったことがありますか？

国会見学にお越し下さい。土屋品子の職場であり、国の法律が決まる場である国会に見学に来て下さい。友人・知人と一緒に、何人でも結構です。



ご意見をお聞かせください。

OWLS NETWORK : <http://www.owls.co.jp/>

E-mail : otaylor@owls.co.jp